

平成24年度

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [採択時公表]

機関名	東京大学	機関番号	12601
1. 全体責任者 (学長)	<small>※ 共同申請のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学 (連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。</small> <small>(ふりがな)</small> はまだ じゅんいち 氏名・職名 濱田 純一(東京大学総長)		
2. プログラム責任者	<small>(ふりがな)</small> はぎや まさみ 氏名・職名 萩谷 昌己(東京大学大学院情報理工学系研究科長・コンピュータ科学専攻)		
3. プログラム コーディネーター	<small>(ふりがな)</small> くによし やすお 氏名・職名 國吉 康夫(東京大学大学院情報理工学系研究科教授・知能機械情報学専攻)		
4. 申請類型	K <複合領域型(情報)>		
5.	プログラム名称	ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム	
	英語名称	Graduate Program for Social ICT Global Creative Leaders	
	副題		
6. 授与する博士 学位分野・名称	分野:情報理工学, 学際情報学, 社会情報学, 工学, 医学, 保健学, 農学, 教育学, 経済学, 法学 博士(情報理工学), 博士(学際情報学), 博士(社会情報学), 博士(工学), 博士(医学), 博士(保健学), 博士(農学), 博士(教育学), 博士(経済学), 博士(法学)		
7. 主要分科	(① 情報学) (② 電気電子工学) (③ 社会・安全システム科学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	機械工学, 都市計画・建築計画, 看護学, 農業工学, 社会医学, 数学, 心理学, 経営学, 経済学, 政治学		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
	情報学基礎, ソフトウェア, 計算機システム・ネットワーク, メディア情報学・データベース, 知能情報学, 知覚情報処理・知能ロボティクス, 感性情報学・ソフトコンピューティング, 図書館情報学・人文社会情報学, 認知科学, 統計科学, 生体生命情報学, 社会システム工学・安全システム, 公衆衛生学・健康科学, 地域・老年看護学, 農業土木学・農村計画学, 農業情報工学, 臨床心理学, 経営学, 経済政策, 政治学		
9. 専攻等名 <small>(主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)</small>	情報理工学系研究科(コンピュータ科学専攻、数理情報学専攻、システム情報学専攻、電子情報学専攻、知能機械情報学専攻、創造情報学専攻)、学際情報学府(学際情報学専攻)、工学系研究科(都市工学専攻、電気系工学専攻)、医学系研究科(社会医学専攻、健康科学・看護学専攻)、農学生命科学研究科(農学国際専攻)、教育学研究科(総合教育科学専攻)、経済学研究科(経営専攻)、公共政策大学院、法学政治学研究科(総合法政専攻)		
10. 連合大学院又は共同教育課程による申請(構想による申請も含む)の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入			
連合大学院		共同教育課程	
11. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			
日本経済団体連合会、日本情報システム・ユーザー協会(JUAS)、日本規格協会、科学技術政策研究所、統計数理研究所、国際協力機構(JICA)、ISO、NPO法人 STeLA、東京海上日動火災保険、日本IBM、Google、エイザイ、Microsoft、Infosys、三菱商事、NTTデータ、新日鉄ソリューションズ、e-Corporation.JP、ETH、Manchester Univ.、UC Berkeley、Technische Universität München、Université Pierre & Marie Curie、Chulalongkorn University、佐賀県、内閣官房情報通信技術担当室、経済産業省商務情報政策局情報政策課情報プロジェクト室、総務省総合通信基盤局電波部			

(機関名:東京大学 申請類型:複合領域型(情報) プログラム名称:ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム)

15. プログラム担当者一覧

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成25年度における役割)
(プログラム責任者) 萩谷 昌己	ハギヤ マサミ	54	大学院情報理工学系研究科・研究科長	コンピュータ科学 理学博士	プログラム全体の統括
(プログラムコーディネーター) 國吉 康夫	クニヨシ ヤスオ	49	大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻・教授	知能システム情報学 工学博士	プログラム推進に関わる企画・統率・調整全般
杉原 正顯	スギハラ マサアキ	57	大学院情報理工学系研究科 数理情報学専攻・教授	数値解析、計算科学 工学博士	サブコーディネーター(プログラムコーディネーター補佐)
今井 浩	イマイ ヒロシ	53	大学院情報理工学系研究科 コンピュータ科学専攻・教授	アルゴリズム論 工学博士	運営協議会委員
小林 直樹	コバヤシ ナオキ	43	大学院情報理工学系研究科 コンピュータ科学専攻・教授	ソフトウェア検証 博士(理学)	カリキュラム委員
須田 礼仁	スダ レイジ	43	大学院情報理工学系研究科 コンピュータ科学専攻・教授	並列高性能計算 博士(理学)	学生評価委員
竹村 彰通	タケムラ アキミチ	59	大学院情報理工学系研究科 数理情報学専攻・教授	統計学 Ph.D.	運営協議会委員、 連携推進委員
中川 裕志	ナカガワ ヒロシ	59	情報基盤センター・教授	統計的機械学習 自然言語処理 工学博士	キャリアパス形成委員
室田 一雄	ムロタ カズオ	56	大学院情報理工学系研究科 数理情報学専攻・教授	数理工学 工学博士、 博士(理学)	学生評価委員
山西 健司	ヤマニ ケンジ	50	大学院情報理工学系研究科 数理情報学専攻・教授	機械学習、データマイ ニング 博士(工学)	評価・計画WG委員、 キャリアパス形成委員
中村 宏	ナカムラ ヒロシ	49	大学院情報理工学系研究科 システム情報学専攻・教授	コンピュータシステム アーキテクチャ 工学博士	運営協議会委員、 キャリアパス形成委員
原 辰次	ハラ シンジ	60	大学院情報理工学系研究科 システム情報学専攻・教授	システム制御工学 工学博士	運営協議会委員・連携推進委員
篠田 裕之	シノダ ヒロユキ	46	大学院情報理工学系研究科 システム情報学専攻・准教授	計測工学 博士(工学)	カリキュラム委員
浅見 徹	アサミ トオル	60	大学院情報理工学系研究科 電子情報学専攻・教授	情報通信工学 情報理工学博士	連携推進委員
伊庭 斉志	イバ ヒトシ	49	大学院情報理工学系研究科 電子情報学専攻・教授	進化計算 工学博士	運営協議会委員、 キャリアパス形成委員
坂井 修一	サカイ シュウイチ	53	大学院情報理工学系研究科 電子情報学専攻・教授	安全・安心情報シ ステム学 工学博士	企画戦略室員 学生評価委員
下山 勲	シモヤマ イサオ	57	大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻・教授	MEMS ロボティクス 工学博士	運営協議会委員、評価・計画WG委員
中村 仁彦	ナカムラ ニヒコ	57	大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻・教授	ロボティクス 工学博士	連携推進委員
廣瀬 通孝	ヒロセ ミチタカ	57	大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻・教授	ヒューマン インタフェース 工学博士	学生評価委員
稲葉 雅幸	イナハ マサユキ	53	大学院情報理工学系研究科 創造情報学専攻・教授	ロボティクス 工学博士	カリキュラム委員
江崎 浩	エザキ ヒロシ	49	大学院情報理工学系研究科 創造情報学専攻・教授	インターネット 工学博士	運営協議会委員、 プロジェクトインキュベーション機構員
千葉 滋	チバ シゲル	43	大学院情報理工学系研究科 創造情報学専攻・教授	ソフトウェア 博士(理学)	学生評価委員
平木 敬	ヒラキ ケイ	60	大学院情報理工学系研究科 創造情報学専攻・教授	並列計算 理学博士	プロジェクトインキュベーション機構員
合原 一幸	アハラ カズユキ	57	生産技術研究所・教授	複雑システム学 工学博士	グローバルデザインWS企画推進機構員
喜連川 優	キツルガワ ムサル	56	生産技術研究所・教授	データ工学 工学博士	企画戦略室員、 グローバルデザインWS企画推進機構員

(機関名: 東京大学 申請類型: 複合領域型(情報) プログラム名称: ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム)

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成25年度における役割)
生田 幸士	イクタ コウジ	58	先端科学技術研究センター・教授	医用マイクロマシン工学博士	グローバルデザインWS企画推進機構員
藤井 真理子	フジイ マリコ	57	先端科学技術研究センター・教授	ファイナンス博士(学術)	学生評価委員
須藤 修	スドウ オサム	56	大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	社会情報学、情報経済論 経済学博士	運営協議会委員
相澤 清晴	アイザワ キヨハル	52	大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	映像・メディア処理工学博士	キャリアパス形成委員
坂村 健	サカムラ ケン	60	大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	コンピュータアーキテクチャ 工学博士	グローバルデザインWS企画推進機構員
田中 秀幸	タナカ ヒデユキ	48	大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	社会情報学 M.A.(IR)	連携推進委員
橋元 良明	ハシモト ヒデアキ	56	大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	社会心理学 修士(社会学)	カリキュラム委員
暦本 純一	エイモト ジュンイチ	51	大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	Human Computer Interaction 博士(理学)	グローバルデザインWS企画推進機構員
水越 伸	ミズコシ シン	49	大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	メディア論 修士(社会学)	学生評価委員
中尾 彰宏	ナカオ アキヒロ	44	大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・准教授	計算機科学 Ph.D.	連携推進委員
大島 まり	オシマ マリ	50	生産技術研究所・教授	バイオ・マイクロ流体工学 工学博士	グローバルデザインWS企画推進機構員
飯塚 敏晃	イヅカ トシアキ	47	公共政策教育部 公共政策学専攻・教授	医療経済学 産業組織論 Ph.D.	キャリアパス形成委員
奥村 裕一	オクムラ ヒロカズ	64	公共政策学教育部 公共政策学専攻・特任教授	行政近代化とICT 教養学士	運営協議会委員、 企画戦略室員
金井 利之	カイ トシユキ	45	大学院法政学政治学研究科 総合法政専攻・教授	自治体行政学 法学士	学生評価委員、カリキュラム委員
藤本 隆宏	フジモト タカヒロ	56	大学院経済学研究科・経営専攻・教授	技術・生産管理 D.B.A	キャリアパス形成委員
新宅 純二郎	シンタク ジュンジロウ	53	大学院経済学研究科・経営専攻・准教授	経営戦略 経済学博士	運営協議会委員、 プロジェクトインキュベーション機構員
相田 仁	アイダ ヒトシ	58	大学院工学系研究科・電気系工学専攻・教授	情報通信工学 工学博士	運営協議会委員、 キャリアパス形成委員
近山 隆	チカヤマ タカシ	58	大学院工学系研究科 電気系工学専攻・教授	情報工学 工学博士	評価・計画WG委員
羽藤 英二	ハツウ エイジ	44	大学院工学系研究科 都市工学専攻・准教授	交通工学 博士(工学)	学生評価委員
小林 和彦	コバヤシ カズヒコ	59	大学院農学生命科学研究科 農学国際専攻・教授	農業気象学 農学博士	学生評価委員
溝口 勝	ミゾグチ マサル	52	大学院農学生命科学研究科 農学国際専攻・教授	国際情報農学 農学博士	運営協議会委員、 プロジェクトインキュベーション機構員
二宮 正士	ニノミヤ セイシ	60	大学院農学生命科学研究科 附属生態調和農学機構・教授	フィールドインフォマティクス 農学博士	キャリアパス形成委員
下山 晴彦	シモヤマ ハルヒコ	55	大学院教育学研究科 総合教育科学専攻・教授	臨床心理学 博士(教育学)	運営協議会委員、学生評価委員
高橋 美保	タカハシ ミホ	43	大学院教育学研究科 総合教育科学専攻・准教授	臨床心理学 博士(教育学)	キャリアパス形成委員、カリキュラム委員
大橋 靖雄	オハシ ヤスオ	58	大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻・教授	疫学・生物統計学 工学博士	運営協議会委員、 グローバルデザインWS企画推進機構員
真田 弘美	マタダ ヒロミ	55	大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻・教授	看護学 博士(医学)	キャリアパス形成委員
山本 則子	ヤマモト ノリコ	48	大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻・教授	成人・緩和ケア 看護学 Ph.D.(nursing)	学生評価委員
大江 和彦	オオエ カズヒコ	52	大学院医学系研究科・社会医学専攻・教授	医療情報学 医学博士	運営協議会委員、 学生評価委員
小林 廉毅	コバヤシ ヤスキ	55	大学院医学系研究科・公共健康医学専攻・教授 (兼任) 社会医学専攻・教授	公衆衛生学 医療政策 医学博士	キャリアパス形成委員
國廣 昇	クニヒロ ノボル	40	大学院新領域創成科学研究科 複雑理工学専攻・准教授	暗号理論 情報セキュリティ 博士(工学)	グローバルデザインWS企画推進機構員

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成25年度における役割)
重木 昭信	シウゲキ アキノブ	61	株式会社NTTデータ 顧問 経団連 情報通信委員会高度情報通信人材育成部会	プロジェクト・マネージメント 工学士	企画戦略室員、 学生評価委員
岩野 和生	イワノ カズオ	60	三菱商事株式会社 ビジネスサービス部門顧問 経団連 情報通信委員会高度情報通信人材育成部会	クラウドコン ピューティング Ph.D.	企画戦略室員、 評価・計画WG委員
大力 修	ダイリキ オサム	63	新日鉄ソリューションズ株式会社フェロー(常務取締役待遇) 経団連 情報通信委員会高度情報通信人材育成部会	人材育成戦略 M.S.	運営協議会委員、 企画戦略室員
浅川 智恵子	アサカワ チエコ	53	日本IBM 基礎研究所 IBMフェロー	HCI (アクセシビリティ) 博士(工学)	キャリアパス形成委員
鈴木 久美	スズキ ヒサミ	44	Microsoft Microsoft Research Researcher(米国)	自然言語処理と その応用 博士(言語学)	キャリアパス形成委員
Feng Zhao	フン ツァオ	49	Microsoft Microsoft Research Asia Assistant Managing Director(中国)	センサ・ネットワーククラ ウド・コンピューティング Ph.D.	キャリアパス形成委員
Aarti Jethwani	ア-ティ ジェスワニ	24	Infosys, Corporate Planning Division, Academic Relations Manager(インド)	学術連携 M.A.	キャリアパス形成委員
工藤 拓	クドウ タク	35	Google Inc. ソフトウェアエンジニア	統計的自然言語 処理 博士(工学)	連携推進委員
長洲 毅志	ナガス タケシ	57	エーザイ(株) 理事 CSO付担当部長	分子生物学 創薬科学 薬学博士	グローバルデザインWS企画推進機構員
牧野 司	マキノ ツカサ	53	東京海上日動火災保険株式会社 IT企画部課長 兼 経営企画部参事 日本情報システム・ユーザー協会主任研究員	最新ICT動向の 調査・研究 経済学士	プロジェクトインキュベーション機構員、カリ キュラム委員
村松 正彦	ムラマツ マサヒコ	36	特定非営利活動法人 STeLA-Japan 職員	リーダーシップ教育 博士(工学)	カリキュラム委員、 連携推進委員
Sophia Ananiadou	ソフィア アナニアドゥ	54	University of Manchester School of Computer Science Professor(英国)	自然言語処理 テキストマイニング Ph.D.	連携推進委員
Bertrand Meyer	バ-トランド・マイヤー	61	ETH Zürich Department of Computer Science Professor(スイス)	ソフトウェア工学 Ph.D.	連携推進委員
Daniele Gerundino	ダニエル ゲルンディノ	55	ISO Strategic Adviser to the Secretary-General(イタリア)	標準化、イノベーション、 サステナブル開発 Doctor in Physics	連携推進委員
Kameshwar Poola	カメッシュワル ポーラ	51	UC Berkeley Department of Mechanical Engineering Professor(米国)	電気工学 Ph.D.	連携推進委員
Sandra Hirche	サンドラ ヒルシュ	37	Technische Universität München Institute of Automatic Control Engineering Professor(ドイツ)	制御工学、ネット ワーク協調制御 Dr.-Ing.	連携推進委員
Serge Fdida	サージ フデーダ	52	Université Pierre & Marie Curie Computer Science Department Distinguished Professor(フランス)	ネットワーク学 Ph.D.	連携推進委員
Somboon Sangwongwanich	ソブーン サンクワンニッチ	50	Chulalongkorn University Dept. of Electrical Engineering Assistant Professor(タイ)	電力工学/スマー トグリッド技術 Dr. Eng	連携推進委員
Stephen Jenner	スティーヴン ジェンナー	54	Portfolio Solutions Co. Ltd. Director(英国)	プロジェクトポート フォリオ・利益管理 M.St., MBA	キャリアパス形成委員
Joe Hsueh	ジュー ハッシュ	36	STeLA(米国)	リーダーシップ・ マネジメント Ph.D.	連携推進委員
廉 宗淳	ロム ジョンスン	49	e-Corporation, JP(株) 代表取締役社長	電子政府・ 電子自治体 修士(国際情報通信)	グローバルデザインWS企画推進機構員
丸山 宏	マルヤマ ヒロシ	53	情報・システム研究機構 統計数理研究所・教授	計算機科学 博士(工学)	カリキュラム委員、 評価・計画WG委員
楠 正憲	クスノキ マサリ	35	日本マイクロソフト(株) 技術標準部部長 内閣官房社会保障改革担当室番号制度推進管理 補佐官	技術政策・国際標準 化・電子行政 学士(経済学)	プロジェクトインキュベーション機構員、キャリ アパス形成委員
川島 宏一	カワシマ ヒロイチ	52	佐賀県 特別顧問	公共イノベーション 社会工学博士	グローバルデザインWS企画推進機構員
松永 明	マツナガ アキラ	50	内閣官房 内閣参事官 兼情報通信技術担当室 参事官 経済産業研究所 コンサルティングフェロー	IT戦略 LL.M.	企画戦略室員・キャリアパス形成委員
平本 健二	ヒラモト ケンジ	47	経済産業省 商務情報政策局情報政策課 情報プロジェクト室 CIO補佐官	電子政府 情報システム 工学修士	評価・計画WG委員
鈴木 茂樹	スズキ シゲキ	55	総務省 総合通信基盤局 電波部 部長	情報通信政策 農学士	評価・計画WG委員
高地 圭輔	タカチ ケイスケ	43	株式会社インターネットイニシアティブ マーケティング本部企画担当部長 (総務省より官民交流派遣)	ブロードバンド 電子自治体 博士(経済学)	学生評価委員
田中 正躬	タナカ マサミ	69	財団法人日本規格協会 理事長	国際標準問題 M.Phil	キャリアパス形成委員
奥和田 久美	オクワダ クミ	54	文部科学省 科学技術政策研究所 科学技術動向研究センター センター長	科学技術政策 科学技術予測 工学博士	グローバルデザインWS企画推進機構員
熊谷 晃子	クマガイ ミツコ	48	独立行政法人国際協力機構 人間開発部 高等教育・社会保障グループ長	社会保障 学士(外国語学)	連携推進委員

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】情報通信技術(ICT)が世界中の人と事物を複雑に結び、急速に変動する未経験の社会経済システムが出現する中で、次々と発生する新たな問題や可能性を捉え、人々に価値あるソリューションを創造し実現する変革が強く求められている。本プログラムでは、ビッグデータ、複雑システム、ヒューマンシステムの先端 ICT を基軸とし、複数専門分野を統合して、社会の喫緊の課題を解決し、あるいは新たな価値をもたらす知識社会経済システムを創造的にデザインし、社会イノベーションを先導するトップリーダーを育成する。

修了者は企業、行政、NPO、ベンチャー起業等で次のような課題に取り組む：スマート社会（東北再生、インフラ、農業含む産業、流通、生活・文化、コミュニティ、医療・健康、災害・テロ耐性）、次世代行政システム（電子行政、意思決定支援、情報社会制度・政策等）、新サービス創出（ICT 高度活用での医療・健康・食・メンタルヘルスの向上、ビッグデータ・SNS・サイバーフィジカル・ロボット活用）。

<人材像> 以下の能力を養成：(1)情報および制度・経済の横串とグローバルな視点で現代の社会・経済システムの本質的な問題や可能性を発見する能力。(2)先端科学技術と人々にとっての価値・意味の両方を理解し、高い理想と倫理のもとに、新たな社会のビジョンと価値創造のシナリオを描く能力。(3)先端 ICT と工学、農学、医学、社会科学の高度専門力を基盤とし、新たな知識社会経済システムを創造的かつ具体的にデザインする能力。(4)それを具現化するプロジェクトを、ステークホルダーのコンセンサスを得て、世界トップレベルの専門家集団を率い、戦略的プロジェクトマネジメントのもとに、オープンスパイラル型の実践方法論で強靱に推進・達成する能力と方法論自体を創造する能力。

<博士論文> 学生が主体的に企画、実施し評価を受けたプロジェクト実践（約 2 年間）について、課題の発見・分析、計画、実施、評価、再利用可能な知見の抽出、今後の課題と展望を高い水準で記述したもの。特に波及効果と社会先導性に重点をおいた独自の基準を導入し開かれた学位審査を行う。

【特色】単なる複合専門教育や演習枠内の従来型 PBL を超えて、ICT 高度利活用を基軸とする社会イノベーションに向けたオープンかつ発展的な取組を本格展開し、その中で実践的に人材育成を行う。

本プログラムは、特定の専門や課題に閉じた従来型方法ではなく、複数の専門と課題にまたがったオープンかつ統合的なシステムデザイン的能力育成を最大の特徴とする。このため、上述の課題および専門分野の全てから、産官民学の別や国境を越えた 20 以上の外部連携機関のトップ人材 31 名と東京大学の 9 部局 16 専攻の教員 55 名、計 86 名からなる世界トップレベルの指導者集団を確保する。これにより、学生が自ら企画した社会イノベーションプロジェクトのために縦横無尽に専門や業種を超えて複数の指導者を選定することが可能となる。指導者集団は次の革新的な育成手法にも参加し強力に支援する：社会の第一線の人材と学生が対等に白熱討論するグローバルデザインワークショップで新たな課題と企画を次々と打ち出し、社会に発信して意見を募る。これを学生主体の個別プロジェクト計画（実施期間 2 年程度）に具体化し、外部連携機関と共同設置するプロジェクトインキュベーション機構により始動し支援していく。育成システムや講義演習について、産官民学協働を特徴とする評価・計画 WG 等で継続的に検証、改良し発展させる。積極的な対外発信と社会対話を通して、これらを世に問い、オープンな発展を期する。

<質保証システムの特徴> 専門基礎・実践力強化、三段階選抜と共通必修科目群に加え、入学から修了まで継続して密着型多元評価を行い、リーダー、マネジャー、スペシャリスト等のロール（役割）適性評価の付与、進路振分や奨励金への反映に加え、キャリアパスポートとして交付し、就職先に提出させる。個別指導メンターの報告を踏まえ、産官民学協働の学生評価委員会が社会の人材ニーズも反映しつつ評価する。また、追跡調査等に基づき評価法の継続的改善に力を入れる。

<キャリアパス支援> 経団連等の外部連携機関と協働し、質保証と連動した特別枠設定も含むキャリアパスを設計し、上記ワークショップ等での交流も連動し学生の能力を活かす場を提供する。

【優位性】

- ・卓越した先端 ICT 研究教育基盤：ビッグデータ時代を先取りした情報爆発プロジェクト、大きな成功を収めた東大グリーン ICT、高度な複雑系科学による社会課題への取り組み、先進のヒューマンインタフェース技術やロボット技術の実績。

- ・東大のポテンシャルを発揮する学内連携：社会課題領域と社会デザインに関わる工学、医学、農学、社会科学の分野のトップレベルの専攻教員との協働による強力な研究教育体制。

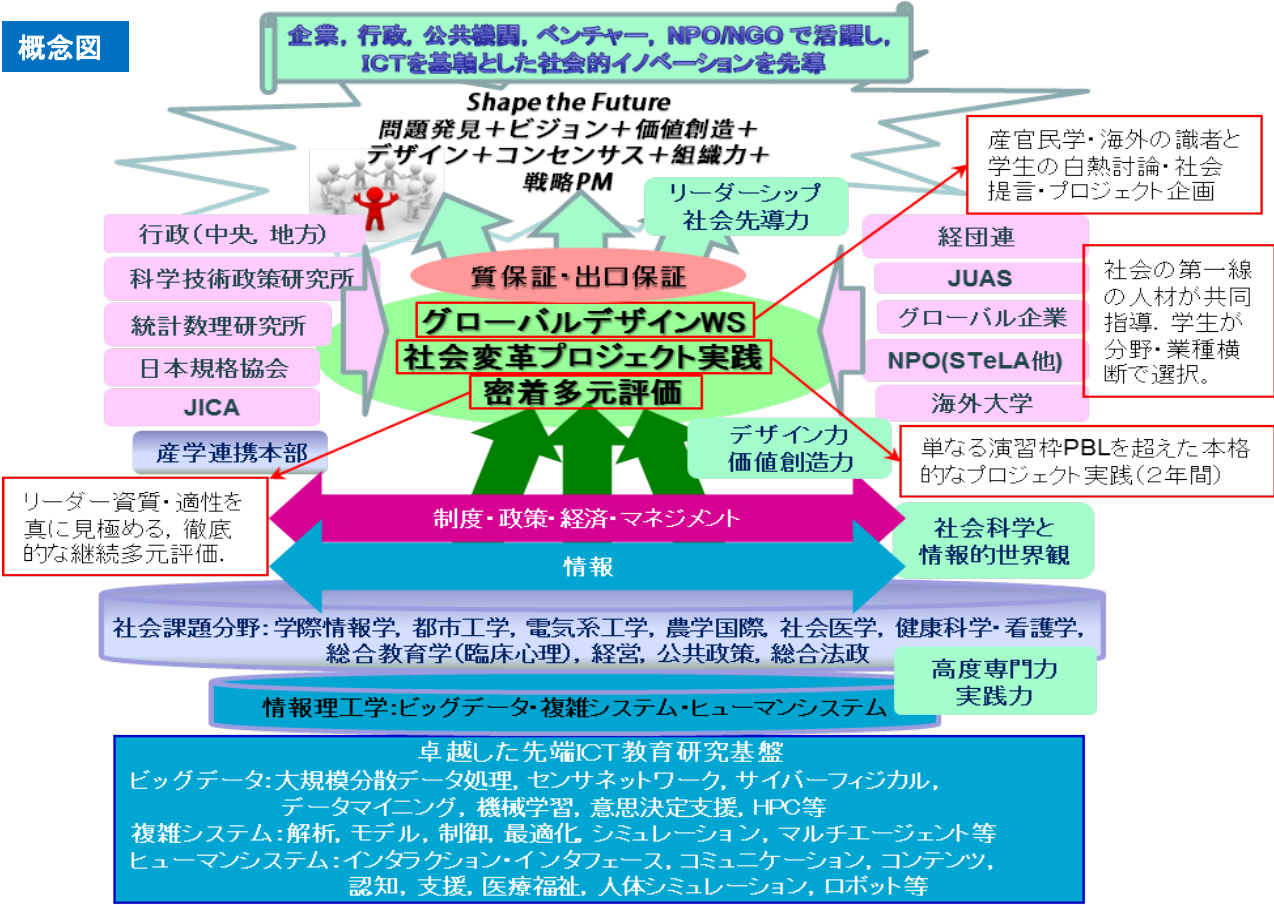
- ・産官民学・海外の強力な外部機関との密な協働：経団連、日本情報システム・ユーザー協会、公的研究機関、行政機関、NPO、グローバル企業、海外大学等との密な協働により、キャリアパス設計、学生プロジェクト支援、ワークショップ、インターンシップ、メンター・講師派遣、プログラム改善等を効果的に推進する。経団連等 5 機関とは覚書を交わし、本提案の構想段階から協議を重ねており、共通理解と協力体制が確立している。

- ・産学連携、国際化教育の強力な実績：産学連携 R2P、北京特別入試、情報理工学国際センター等。

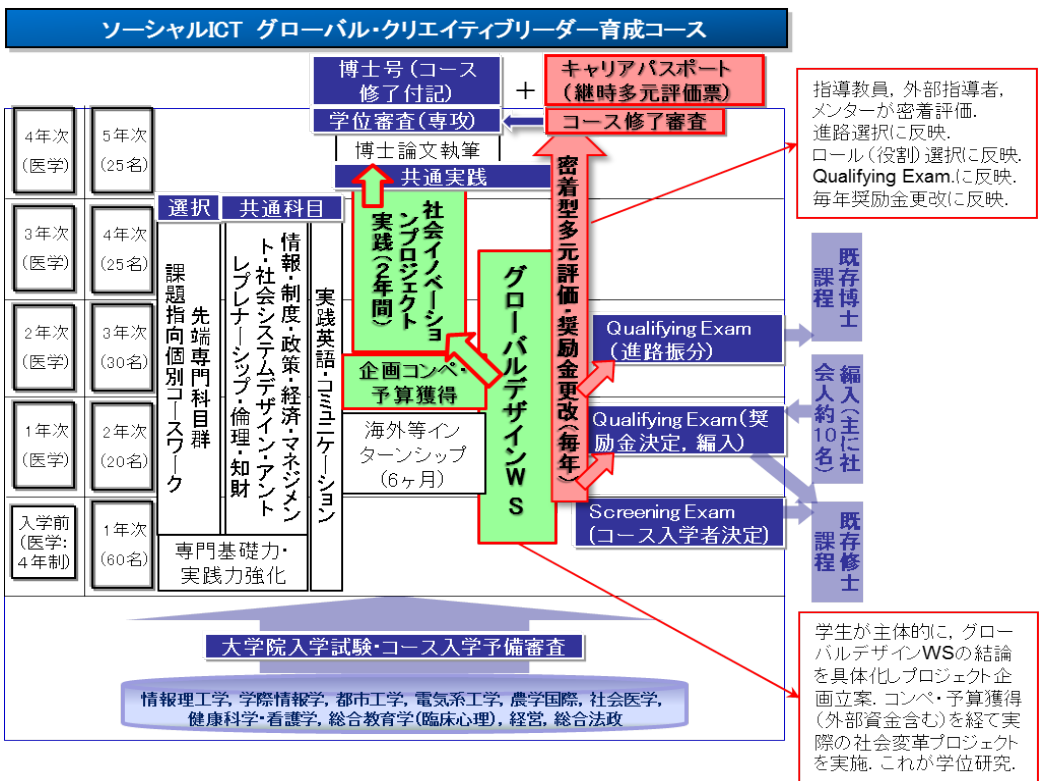
学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

概念図



課程構成



機 関 名	東京大学
プログラム名称	ソーシャル ICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム
<p>[採択理由]</p> <p>プログラム担当者は多様なトップレベルの教授陣、多数の大型予算獲得者から構成され、多様な国際連携も推進されており、よく練られた優れた提案である。新しい分野の創設と新たな学位審査基準を明らかにするなど、グローバルリーダー育成に向けての総合的なプログラム提案である。また、目指す人材像が鮮明であり、本プログラムに適合しており、解決すべき課題も具体的で、適切である。一方、学位審査について社会への波及効果等で評価する仕組みは評価できるので、新しい試みとして現行制度を改革してゆく必要性が認識されている。</p> <p>本プログラム履修生として社会人学生を高比率で加えるという方向性も、現状の大学改革における課題解決にマッチしており、ワークショップや問題解決型授業などは実績もあり効果が期待できる。また、カリキュラムに高い柔軟性があり、多様な選択肢がある点も評価できる。</p> <p>以上のように、全体として大変よく準備され、実現性も高い提案となっており高く評価できる。</p>	